



新しい大津町をつくる101の具体策 進捗状況

2022年4月更新版
前回からの
主な追記事項は赤
字にて記載

大項目	番号	個別項目	具体策の概要	進捗・取組み
まずは、コロナ対策に全力!!	1	公衆衛生を徹底する	消毒や検温、レイアウトなど、先進自治体や民間企業の手法も取り入れながら、公共施設や学校などにおける感染防止対策を徹底しながら啓発を行います。 ※税収減も見込まれるなか、コロナ対策の先頭に立つ姿勢を示すとともに、財源を捻出するために月例報酬を4年間に亘り、3割カット。	<ul style="list-style-type: none"> ●町長月例報酬の3割を4年間(約1000万円)削減する条例を可決。(2021.03) ●新庁舎の全出入口への検温器およびアルコール消毒設置、窓口へのアクリル板や消毒済みペンの設置、全職員の毎朝の検温などを徹底。(2021.07) ●ワクチン接種に係る経費補助(通信料や交通費など)として、接種完了者へ1人当たり地域商品券2000円分を配布。(2021.09) ●福祉施設や保育所、役場や避難所を含む公共施設での感染拡大を抑止するために簡易検査キットを500セット導入し、感染者との接触者や体調不良者向けに積極活用。(2021.08)
まずは、コロナ対策に全力!!	2	自粛期の健康を支える	屋外型やオンラインの運動教室や文化講座などの多様な切り口で、主に高齢者の過度な自粛による、身体機能の低下や鬱、認知症などのリスクを抑えます。	<ul style="list-style-type: none"> ●協定先の民間企業から人材が派遣される「地域活性起業人」の制度を活用して、大手スポーツクラブのルネサンスから職員を受入れ、オンラインも含め、企業のノウハウも生かした取組みを構築中。(2022.04) ●連携中核都市圏で取り組む「健康アプリ」の運用を開始し、一人でも楽しく続けられる健康づくりを推進。(2022.04)
まずは、コロナ対策に全力!!	3	インフルエンザ予防接種の助成	新型コロナとの同時流行「ツインデミック」による医療体制の逼迫を防ぐために、重症化するリスクが比較的高い65歳以上の予防接種を助成します。	<ul style="list-style-type: none"> ●ツインデミック等による医療体制の逼迫への抑止策としては、コロナワクチン接種に係る経費の一部を年齢を問わず全対象者へ助成。(2021.9) ※番号1の経費補助施策と同一取組み
まずは、コロナ対策に全力!!	4	休校に備えた体制整備	休校に備えた遠隔での授業体制づくりの早期実現や、遅れを取り戻すためのICTを活用した効果的な学習環境の構築を通します。	<ul style="list-style-type: none"> ●全小中学校への一人一台パソコンの導入を完了。Wi-Fiがない家庭向けにはポケットWi-Fiを貸与する予算を措置。(2021.04) ●コロナ発生状況を踏まえ、学校閉鎖となった町内中学校1校で2週間、小学校4校で1週間の完全オンライン授業を実施し、当該期間はその他の小中学校をオンライン授業推奨期間として実施。また感染拡大期間にあたってはオンラインでの授業参加も認める対応を実施。(2021.09)
まずは、コロナ対策に全力!!	5	事業者をしっかりと支える	商工会等とも連携しながら、小売りや飲食・サービス業などにおける感染防止取組みを支援し、住民が少しでも安心して町内の店舗やサービスを利用できるように取り組めます。	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症対策緊急経済協力金として、感染症対策をおこなっている飲食・宿泊業などへ1事業者あたり10万円等を助成。(2021.03) ●ワクチン接種完了者へ町内登録店でのみ利用可能な商品券を2000円分を発行。(2021.09) ※番号1の経費補助施策と同一取組み
まずは、コロナ対策に全力!!	6	役場の業務継続計画を整える	緊急時にも役場として必要な役割を確実に果たすために、職員から感染者が出た際のBCP(業務継続計画)の強化を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ●人事異動と合わせて既存のBCPの見直しを実施。(2021.04) ●係長会議などを経て、既存のBCPを根本的に見直し・強化。(2021.07)
命を守る徹底した防災・防犯	7	町の危険個所の総点検	先送りされている町内危険個所の総点検を行い、自然災害や事故の予防的措置を徹底します。	<ul style="list-style-type: none"> ●一斉点検を実施(2021.06) ●2021年度より2年計画で区長等からの要望や町独自の把握箇所におけるカーブミラー、消えかけの白線や交通安全標識などの危険個所を集中的に整備。(2022.03) ●町内の街灯を2年計画ですべてLED化する方針に基づき、2021年度に南部の整備が完了。2022年度は北部の整備予算を可決。(2022.03) ●道路や側溝等の不具合について、区長だけではなく住民がスマートフォンを活用して町へ直接報告できるシステムの導入を開始。(2022.04)
命を守る徹底した防災・防犯	8	防災行動計画をしっかりと作る	熊本地震の徹底検証を通して、具体的な「防災行動計画(タイムライン)」を策定し、より機能する防災体制を構築します。	
命を守る徹底した防災・防犯	9	災害時応援協定を充実させる	町内事業者などと「災害時応援協定」の締結を進め、民間の力を生かした災害対応力強化を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ●大手ホームセンターと災害対応に係る優先調達協定を締結(2021.03) ●株式会社イデックスリテール熊本と「災害時における石油類燃料の供給に関する協定」を締結(2021.03) ●株式会社構造計画研究所と防災情報の精度向上も含めた包括協定を締結(2022.03)
命を守る徹底した防災・防犯	10	防災士としっかりと連携する	「大津町防災士連絡協議会」と強く連携しながら、地域の自主防災組織の設立・強化を支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ●地域防災力活動支援事業補助金として、自主防災組織などが地域での備品購入や防災訓練をおこなう際の必要経費を補助する予算を可決。(2021.06/前年度から継続) ●近隣市町村との共同で防災士養成講座を開催する予算を可決(2022.03)
命を守る徹底した防災・防犯	11	防災訓練の有効性を高める	現在の町主催訓練の内容を見直し、より有効度の高い「参加型防災訓練」を充実させます。	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍も踏まえ、例年10月の町総合防災訓練における展示型の訓練は取りやめ、各地区での実践訓練を推奨・支援するとともに、役場独自でコロナを想定した避難所設置訓練を実施。(2021.10)
命を守る徹底した防災・防犯	12	子ども達も楽しく学べる防災講座	楽しく学べ、教育効果も期待できるゲーミフィケーションなど多様な形での防災研修・講座の地域・学校での実施を支援します。	
命を守る徹底した防災・防犯	13	避難所の安全性確認と見直し	水害、地震などの多様な災害における避難所の安全性を確認するとともに、必要に応じた見直しを行います。	<ul style="list-style-type: none"> ●平時およびコロナ禍における避難所機能を強化するために、指定避難所である矢護川コミュニティセンターへの洋式トイレおよびシャワールの設置をおこなうとともに、図書室を改修して避難スペースを拡張(2022.01) ●各避難所と本部を繋ぐ無線機器を導入するとともに、避難状況がリアルタイムで分かるオンラインシステムを稼働。(2021.08)
命を守る徹底した防災・防犯	14	防災無線難聴地域への対応	防災無線難聴エリアのうち、町の総合情報メールの活用が難しい世帯向けに個別受信機の設置を助成します。	<ul style="list-style-type: none"> ●防災無線設置状況調査の委託費を可決。当該年度中に調査をし、難聴地域における防災無線の新設。個別受信機の設置は随時進めている。(2021.06) ●防災無線の内容が聞き取れなかった場合に、指定の番号に電話をすることで同様の内容を確認できるサービスを開始。(2021.07) ●LINEでの防災無線内容の同時配信を開始。(2021.07) ●2021年度に実施した防災無線音達調査を踏まえ、防災無線の新設等を行う予算を可決。(2022.03)

命を守る徹底した防災・防犯	15	多様な視点による避難所運営	子どもや女性、要支援者などの多様な視点を生かした避難所運営マニュアルや、設備・備品を整備します。	
命を守る徹底した防災・防犯	16	福祉避難所を充実させる	高齢者をはじめとした要介護者や障がい者が安心して避難できる「福祉避難所」の充実を進めます。	●町内9か所の福祉避難所を指定避難所へ移行（移行後は計9か所）。（2021.09）
命を守る徹底した防災・防犯	17	消防団の負担軽減と機能強化	防災士連絡協議会との役割整理や「訓練の見直し等を通して団員の負担軽減と災害対応力の強化を進めます。	●機能別消防団の新設や報酬の額、支払方法、活動支援等について、消防団と協議中。（2021.10） ●消防団員報酬の見直しを行うとともに、活動を支援するための運営交付金を創設。また、団と相談の上で式典などの負担軽減を実施。（2022.04）
命を守る徹底した防災・防犯	18	地域防災力を強化する	警察・金融機関との連携や、啓発や注意喚起の強化を行うとともに、要所への防犯カメラの設置を進めます。	●昭和園を含む合計5基の防犯カメラを設置。今後も防犯協会と連携しながら毎年5基ずつ新設予定。（2021.03）
子育て支援・教育環境日本のまちづくり	19	待機児童ゼロと学童の定員増	学童を含めた待機児童の解消に取り組むことはもとより、園との協働で量だけでなく「保育の質」の一層の向上を図ります。	●2021年4月時点で待機児童ゼロを達成。（2021.04） ●年度途中に増える保育需要に対応するため、「予備保育士」の雇用に係る費用の一部を助成。（2021.03/前年度から継続） ●大津小学校区に学童保育施設を1クラス増設するための建設予算を可決。（2021.08）
子育て支援・教育環境日本のまちづくり	20	多様な子育て世代を支える	働き方の多様化などに対応し、「延長保育」、「休日保育」などの充実を進め、多様な生活時間へ対応できる支援体制をつくりします。	●病児保育の受け皿を子育て支援センター内に新設。（2021.09） ●第3子以降が対象の「放課後児童クラブ利用事業補助金」を新設し、多子世帯を補助。（2021.09） ●妊娠・出産・子育てに関する様々な相談を関係機関で切れ目なく行うための【子育て世代包括支援センター】を子育て・検診センター内に開所（2021.10） ●4・5か月検診時にスプーンセットの配布と管理栄養士による指導、7・8か月検診時に歯ブラシセット配布と歯科衛生士による指導をおこなう事業を開始。保健師が同席して育児の悩み相談も合わせて実施する。（2021.10） ●充実した運営を行いながら、幼児教育や保育の質、および在宅家庭支援（セーフティーネット）の機能・環境を如何に向上させるかを念頭に置いたうえで、公立の認定こども園新設も見据えた「大津町公立保育等再編方針」を策定。今後は当該方針を推進。（2022.03）
子育て支援・教育環境日本のまちづくり	21	ファミリーサポート制度の強化	ご近所での助け合いによる託児を可能とする「ファミリーサポート制度」の充実を図り、地域の絆による子育て支援を進めます。	●ファミリーサポート制度利用対象年齢を「おおむね10歳まで」から「小学校6年生」までに引上げ。（2022.04）
子育て支援・教育環境日本のまちづくり	22	諸団体・NPOとも連携した支援体制	課題の多様化に対応するため、NPO等とも連携しながら、行政だけでは担うことができない、多様な世帯状況に対応できる子育て体制をつくりします。	●町内NPO法人が9月に開設する「子ども第三の居場所づくり」に関し、同法人および日本財団と連携・協力に関する三者協定を2021年8月に締結、開所済み。（2021.08）
子育て支援・教育環境日本のまちづくり	23	多様な子ども達を支える	多様な子ども達をしっかりと支えるために、幼保育園や小中学校における合理的配慮や支援員の増員等を進めます。	●2021年3月の専決にて、建替えや大規模改修が予定されている大津中、南小を除いた全小中学校のトイレの洋式化を予算化。（2021.06） ●子育て支援課を教育部から住民福祉部へ移管し、福祉との繋がりを強化。（2021.04） ●町の備蓄品も活用して学校トイレに生理用ナプキンを設置する取り組みに向けて準備を開始。（2021.09）
子育て支援・教育環境日本のまちづくり	24	当事者の声を生かす仕組みづくり	不登校や引きこもり、いじめの撲滅に向けて、各種会議に当事者（団体・家族）の選任を原則化します。	
子育て支援・教育環境日本のまちづくり	25	18歳までの医療費無償化	支出が増加する15歳からの子育て世帯の家計負担を軽減し、子ども達の命と健康を確実に守るため、子ども医療費の無償化を18歳までに拡大します。	●条例改正をおこない、2021年10月から制度運用開始。（2021.06）
子育て支援・教育環境日本のまちづくり	26	非課税世帯の給食費無償化	非課税世帯への給食費無償化などの具体的な対策を打ちながら、多様な世帯と子ども達を支えます。	●非課税世帯などが対象となる「就学援助」の対象者には給食費も援助されるが調査した結果、当該制度の周知不足などで援助対象世帯の一部が未申請で受給できていない実態を把握。町からの発信文書をより分かりやすくするとともに対象世帯へ個別で郵送にて通知し、必要とする世帯の申請率は概ね100%を達成。（2021.07）
子育て支援・教育環境日本のまちづくり	27	ボランティアの力をいかす	学習支援ボランティア等の充実を図ることで、関わり合いのなかでの多様な学びの環境や、一人ひとりへのよりきめ細かい教育支援を行います。	
子育て支援・教育環境日本のまちづくり	28	郷土愛をしっかりと育てる	地域住民とのつながりや町の歴史・文化教育の充実を通して、子ども達が「地域に残りたい」、「故郷を離れた後も関わり続けたい、また住み暮らしたい」と思える郷土愛を醸成します。	●大津中学校にて全校生徒へ向けて【大津町の将来を考えよう】というテーマで、町の歴史文化、特色、政策・施策や展望などについての講話および質疑応答を実施。（2021.06） ●子ども達や若者にも人気のお笑いコンビEXITを招き、江藤家、不知火光右衛門、銅銭糖などの歴史・文化資産をPRしてもらい、広報やYouTube、SNS等でも発信。（2021.07）
子育て支援・教育環境日本のまちづくり	29	最先端の教育環境を整備	スタディログ（学習記録）などのICTを活用し、子ども達の習熟度や個性に応じた最先端の教育を環境整備します。	●一人一台パソコンの配備を完了。学習ソフトも導入済みであるため、教職員の研修もおこないながら、より効果の高い活用を進める。（2021.04）
子育て支援・教育環境日本のまちづくり	30	夢を叶える力を養う	思い込みや慣習ではなくデータにも基づいた「より高い教育効果」が認められている教育手法を導入します。	
子育て支援・教育環境日本のまちづくり	31	生き抜く力を養う	社会生活においても重要だと言われる非認知能力（自制心、意欲、社会性など）の向上策を進めるとともに、教育効果の高いと言われている「幼児教育」の充実を図ります。	
子育て支援・教育環境日本のまちづくり	32	幅のある人間力を養う	国際交流や部活動、社会体育などの環境を整えながら、多くの機会と選択肢を提供し「幅のある人間力」、「生きる力」の育成を図ります。	
子育て支援・教育環境日本のまちづくり	33	国際化に備えた使える英語教育	私自身の海外での生活・勤務経験も生かし、受験や就職などでも重要性を増している英語教育を強化します。	●英検受験への助成を継続するとともに受験料の増額に合わせて助成費用を引き上げ。（2021.03/前年度から継続） ●すべての中学3年生の英検受験機会を確保する予算を可決。（2022.03）

子育て支援・教育環境日本のまちづくり	34	公立高校学区外枠の拡大	公立高校学区外枠拡大に向けて、同様の課題を抱える市町村長などと共に協議会を立ち上げ、強力に推進します（地元高校への進学バランスを勘案して13%から20%へ）。	●県に対し、町としての課題認識および改善案を提示。（2021.06）
人生100年時代を見すえた福祉	35	乗合タクシーの充実とまちなか巡回バスの実現	交通弱者の増加に備え、ICTも活用して「乗り合いタクシーの利便性向上（本数増や予約の柔軟化）」、「まちなか巡回バス導入」などによる公共交通の充実を進めます。	●2021年6月議会にて、次代の交通体系づくりに向けた地域公共交通計画策定に向けた予算を可決し、策定中。（2021.10）
人生100年時代を見すえた福祉	36	病気・介護予防と早期治療体制を整える	がんや認知症検査などの受診者などを増やすためのインセンティブ（受診特典）制度を設けることで、住民一人ひとりの健康づくりにつながる制度・環境を整えます。	●熊本市が中心になって取り組んでいる連携中枢都市圏共通の健康ポイント制度である「熊本健康アプリ」の運用を開始。（2022.04/番号2の取組みと同様）
人生100年時代を見すえた福祉	37	本当に効果のある健康づくりを推進	町内の「健康維持や介護プログラムの効果検証」を行い、日々の取組みがより健康維持に繋がりがやすい環境をつくりまします。	●協定先の民間企業から人材が派遣される「地域活性起業人」の制度を活用して、大手スポーツクラブのルネサンスから職員を受入れ、企業ノウハウを生かした取組みを構築中。（2022.04/番号2の取組みと同様）
人生100年時代を見すえた福祉	38	地域に健康づくりの場を創る	地域公民館等での講座や、グラウンドゴルフなどの生涯スポーツ、敬老会活動などの支援により、近所で気軽に健康づくりができる体制をつくりまします。	●地域でのグラウンドゴルフや寄り合いなどの経費を助成する地域づくり活動支援事業補助金を可決。（2021.03/前年度から継続）
人生100年時代を見すえた福祉	39	セカンドライフを支援する	定年退職者などに職業や趣味、ボランティアの集いなどを紹介する「セカンドライフ支援窓口」を設けるとともに、「シルバー人材センター」との連携を強化します。	●就労的活動支援コーディネーターの役割拡充等により、「ふくしの相談窓口」と連携した、退職後のセカンドライフの充実に向けた取組みを開始（2022.04）
人生100年時代を見すえた福祉	40	いつまでも住み慣れた環境で	いつまでも住み慣れた地域で自分らしい暮らしを選択できるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が地域で一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築を推進します。	●番号47の取組みとも合わせて推進中 ●JA移動販売車巡回エリアの拡大に向けて、協定を締結するとともに車両購入費の一部を助成。（2021.07 運行開始）
人生100年時代を見すえた福祉	41	地域のチカラを生かす	大津町型「地域ケア会議」によって、役場や医療・福祉機関、ボランティアや地域住民が、それぞれの持つ資源や情報、専門性を生かしながら地域福祉の環境改善を進めます。	●番号47の取組みとも合わせて推進中
人生100年時代を見すえた福祉	42	民生委員を支える	負担が増える一方で担い手の確保に苦慮している「民生委員」の支援体制を拡充することで、課題の解消と地域福祉体制の強化を進めます。	
人生100年時代を見すえた福祉	43	認知症相談窓口の充実	2025年には軽度認知障害を加えれば、65歳以上の3人に1人（1,300万人）にのぼると言われる患者と家族を支えるため、早期発見と適切なケアに向けた「総合相談窓口」を設けます。	●番号47の取組みとも合わせて推進中
人生100年時代を見すえた福祉	44	認知症サポーターの仕組みを機能させる	現在、受講した経験があるだけの「ペーパーサポーター」が大半の認知症サポーターの既取得者研修（スキルアップ研修）を行います。	●認知症サポーター既取得者研修を開催。（2022.01）
人生100年時代を見すえた福祉	45	企業・団体の力を借りた高齢者支援	企業等との連携で見守り、家事援助などを行う「高齢者生活支援サービスネットワーク」を創設し、限られた財源のなかでも多様な生活様態に対応できる体制をつくりまします。	
人生100年時代を見すえた福祉	46	施設入所難民の解消	施設不足による入所難民の増加防止に向けて、民間とも協働しながら計画的・体系的に進めていきます。	●就労的活動支援コーディネーターの役割拡充等により、ボトルネックの一つとなっている施設の働き手不足に向けた取組みを開始。（2022.04）
人生100年時代を見すえた福祉	47	困窮者の生活再建を支える	年齢や障がいの有無などにかかわらず、生活困窮家庭への支援や相談体制の強化を進め、生活の立て直しをサポートします。	●新庁舎移転に合わせ、「障がい者相談支援センター」、「地域包括支援センター」、「くらしの相談窓口」を一か所に集約し、高齢者支援、障がい者支援、生活困窮、ひきこもりなど、複数の課題を抱えられる方が総合的に相談できる「ふくしの相談窓口」を開設。複雑化した課題を包括的に受け止める総合的な支援体制を構築するとともに専門の相談員を配置。（2021.07） ●新型コロナウイルス感染症の影響などにより、経済的に困窮する方々を支援するため大津町企業連絡協議会からの寄付をもとに、生理用品を提供する取組みを開始。（2021.07）
人生100年時代を見すえた福祉	48	仮設団地での支援ノウハウを生かす	仮設団地での見守りや生活支援を検証し、単身高齢者や交通弱者などが多く生活している過疎・高齢地域での福祉の取組みに生かします。	
人生100年時代を見すえた福祉	49	暮らしの再建を継続して支える	社会福祉協議会などと連携して復興公営住宅の見守りを継続しながら、必要な支援と自立へのサポートを丁寧に行います。	●2021年3月の地域支え合いセンター閉鎖後、可能な方は既存の福祉施策にお繋ぎするとともに引き続きのサポートを実施中。 ●コロナ禍における生活困窮者支援の観点から、社協および町内郵便局と連携して善意によるフードポスの設置をするとともに、年越しに向けた食料配布を実施。（2021.12）
活気とにぎわいを生む仕組みづくり	50	「スポーツの森駅の新設」と周辺エリアの整備・活性化	「スポーツの森駅」の新設を進めるとともに、住宅エリア、商業エリアなどを設定し、税制優遇策などで温泉施設誘致も進めながら、人口や税収を増やし、町民全体の暮らしの向上につながる都市計画を描きます。	●2021年6月議会にて、新駅設置および周辺開発に係る概算事業費などの調査委託費用を可決・委託先が決定して現在調査中。（2021.09）
活気とにぎわいを生む仕組みづくり	51	アウトレットモールを誘致しよう	大津町の「立地」を生かし、町内産業と競合せず、さらに外需を呼び込むアウトレットモールの誘致を進めます。南九州には、まだアウトレットモールが一つもないことも追い風です。	●アウトレットモールをはじめとした「町内商業施設と競合せず、町外からの誘客も見込める特色ある中～大型商業施設」の誘致に向けて、情報収集や企業へのアプローチを実施中。
活気とにぎわいを生む仕組みづくり	52	南北縦断道路の新設	菊陽町の発展は一つには幹線道路を上手に通していることにも起因しています。特に菊陽町に比較して圧倒的に少ない南北を結ぶ道路の整備は早急に具体化が必要です。	
活気とにぎわいを生む仕組みづくり	53	阿蘇くまもと空港への新道路	熊本空港へのアクセスは滑走路下のトンネルを通過する必要があり、別ルートは安全保障上も不可欠であるため国とも具体的な交渉をしながら前進させます。	●道路全般の陳情と合わせて事業所訪問による国への要望を実施。（2021.11）
活気とにぎわいを生む仕組みづくり	54	生活道路の渋滞緩和	日々の交通渋滞は暮らしの満足度を大幅に下げます。交通量分析や、道路改良、ルートの新設など、様々な手法を用いて集中的に改善を進めます。	●三吉原北出口線（大津北中学校南側道路）の渋滞緩和に向けて南北に抜けるルートを整備中。
活気とにぎわいを生む仕組みづくり	55	復旧インフラや復興シンボルを生かす	復旧したJR豊肥本線や、国道57号および北側復旧ルート、設置予定のONE PIECE（ワンピース）ゾロ像を生かした取組みを積極的に実施します。	●ワンピースのゾロ像活用イベントや、震災遺構などを活用した回廊型ミュージアムによる交流人口プロジェクトに関する予算を可決。（2021.03）

活気とにぎわいを生む仕組みづくり	56	多様な公園づくり	町に不足している 遊具公園、BBQ広場など、「特色ある公園」づくりを進めることで、町民の豊かな暮らしを支えます。	●野外活動等研修センター（真木）にBBQサイトを新設。（2021.06）
活気とにぎわいを生む仕組みづくり	57	ハコモノを有効に活用する	総額で年間3千万円近い維持管理費用に対して、利用率の低い歴史文化伝承館や、まちづくり交流センター、駅南口ビジターセンターの一層の有効活用を進めます。	●町の玄関口である駅南口ビジターセンター敷地内に町の特産品である「からいも自動販売機」を設置（2021.09） ●歴史文化伝承館のあり方の見直し、および利用者増加に向けて、専属の副館長を配置。（2022.04）
活気とにぎわいを生む仕組みづくり	58	地域公民館を大切にす	地域コミュニティを支え、防災拠点ともなる地域公民館の機能充実や、場を活用した活性取組みを支援します。	●2021年3月議会にて、矢護川コミュニティセンターの改修および指定避難所としての機能を向上させるための洋式トイレやシャワースペース設置、避難スペース拡張などの予算を可決。（2021.06）
活気とにぎわいを生む仕組みづくり	59	新しいカタチの空き家対策	報奨制度付きの「空き家バンク制度」による利活用推進や「ふるさと納税制度と連動した管理体制」など多様な取組を進めます。	●大津町空き家対策計画を策定（2022.04） ●危険空き家の対策のために解体に対する助成制度を創設（2022.04）
活気とにぎわいを生む仕組みづくり	60	持続可能な自然と共生するまちづくり	乱開発は抑制しながら、太陽光や風水力発電、再生可能エネルギー推進を継続することで自然と共生できる持続可能なまちづくりを進めます。	
活気とにぎわいを生む仕組みづくり	61	歴史文化伝承館を一層生かす	「歴史文化伝承館」の意義と目的を再定義し、まずはこの町に住み暮らす人の豊かな文化的生活と郷土愛の醸成に一層寄与する施設にします。	●利用者の多い町図書館とのコラボ企画（収蔵品の図書館での展示イベント開催）を実施。（2021.08） ●歴史文化伝承館のあり方の見直し、および利用者増加に向けて、専属の副館長を配置。（2022.04/番号57の取組みと同様）
活気とにぎわいを生む仕組みづくり	62	物語を大切に歴史文化継承	江藤家住宅や不知火光右衛門などの歴史文化に秘められたストーリー（物語）を大切に歴史と文化の継承を図ります。	●町の指定文化財の情報をHPに掲載するためにデータの作成を開始。（2021.09） ●取組を全体的に推進するため、約30年ぶりとなる新たな学芸員（正規職員）を配置。（2022.04）
活気とにぎわいを生む仕組みづくり	63	歴史文化の担い手を育てる	気軽に参加できる初心者向けのプログラムや、体験型イベントを充実させ、歴史文化における次世代の中心となる担い手を育てます。	
活気とにぎわいを生む仕組みづくり	64	文化的な取組みを充実させる	図書館や、公民館講座などを充実させつつ、各地域での出張型講座などにも一層取り組むことで、生涯にわたり心豊かに暮らせるまちづくりを進めます。	
活気とにぎわいを生む仕組みづくり	65	無関心層にも届く情報発信	一部の住民だけでなく、無関心層にも興味関心を持っていただくために、民間企業の手法も取り入れた訴求力の高い情報発信・参加促進策を実施していきます。	●LINEセグメント配信機を新設。「子育て・教育」、「健康」、「町のイベント」など、利用者が選択した既定のカテゴリー（属性）の情報のみが配信されるように変更を行うことで、より有効な情報発信を進める。（2021.09） ●民間企業との協定を締結し、副業人材として民間からの広報戦略アドバイザーを採用。（2021.09）
活気とにぎわいを生む仕組みづくり	66	学校を核とした過疎対策	地域活性のカギの一つは「学校」です。周辺活性計画を綿密に立て、特色ある最先端の教育環境と特色づくりと合わせて、学校を核とした本質的な過疎対策に取り組めます。	●大津中学校の再整備に向けた設計業務委託費の予算を可決。（2022.03）
町内産業支援と活性化	67	徹底した鳥獣・病害対策	高い専門性も求められる鳥獣対策や病害対策に向けて、役場に「鳥獣・病害対策係」を新設し、人・予算ともに集中的に対応します。	●役場全体で人員が不足しているため係新設はいったん見送り。鳥獣被害の増加に対応してイノシシなどの捕獲報奨金および電気柵・箱罠導入補助金を増額。（2021.06） ●サル被害防止に向けて、捕獲したサルにGPSの取り付けを行い、調査・対策を検討中。（2022.03）
町内産業支援と活性化	68	安定して稼げる農業支援	圃場整備と人・農地プランの推進をし、農業従事者が安定的に稼げるための農業支援を行います。	
町内産業支援と活性化	69	農家からの多様な相談への体制整備	補助金、6次産業化、販路拡大等に関する様々な相談支援体制を強化することで、多様な形態の農業従事者を支援します。	
町内産業支援と活性化	70	農業先進機器の導入を助成	農業先進機器導入の助成など、少ない負担で安定して稼げる農業を推進し、新たな挑戦を強力に支援します。	
町内産業支援と活性化	71	地産地消と食育を推進する	町内団体とも連携を深めながら、地産地消と食育を一層推進することで、町内農作物の振興と食習慣の改善を通じた健康づくりを進めます。	
町内産業支援と活性化	72	産業支援型企業の誘致による地場産業の強化	コンサルやIT企業などの産業支援型企業を誘致することで、地域産業との相乗効果による産業活性を促進します。	●県とも情報を交換・収集しながら具体的な誘致動員パッケージを構築するとともに町内ツアー等を実施。（2021.08） ●県知事立ち合いのもとで大津町初となるIT企業との立地協定を締結（2021.11） ●2社目となるIT企業との立地協定を締結（2022.02） ●更なる誘致促進に向けた民間事業者とのアドバイザー契約の予算を可決（2022.03）
町内産業支援と活性化	73	「マーケティング専門官」登用による産業活性	民間登用の「マーケティング専門官」の雇用により、地場産業の支援、ふるさと納税の販促などを一体的に進めます。	●民間企業との協定を締結し、複業人材として民間からのマーケティングアドバイザー2名を採用。（2021.07）
町内産業支援と活性化	74	地域でお金を回す仕組みをつくる	町や民間における物や原材料、工事関連など、産業全体の地産地消による「安定した強い内需と雇用」を育てます。	
町内産業支援と活性化	75	地場産業と新規創業者を応援する	町内事業者の域外進出・業務拡大や、創業希望者への支援を行うことで、町内産業の底力と多様性の向上を図ります。	●「企業誘致課」を「企業振興課」に改め、誘致だけではなく立地後の支援・振興を行う役割を明確化。（2021.04） ●支援体制強化に向けた中小企業・小規模企業振興条例を制定。（2022.03）
町内産業支援と活性化	76	地域経済の相乗効果を高める	商工会や観光協会、飲食組合、商店組合とも協働しながら、町内産業間の連携による相乗効果の創出を図ります。	●連携を進めるために、議会一般質問に答える形で、年内の中小企業振興条例の制定を明らかにするとともに関係機関と協議・調整を開始。（2021.09）※番号75と同一取組み

町内産業支援と活性化	77	お金の流れを生む観光政策	民間のマーケティング手法を導入しながら、町内消費・経済効果につながる“お金の流れを生む観光政策”を展開します。	<ul style="list-style-type: none"> ●番号73の取組とも合わせて推進。 ●民間企業から人材が派遣される「地域活性起業人」の制度を活用してANAとの協定を締結。派遣員は同社のバックアップを得ながら観光協会にて業務に従事。(2021.12) ●「地域おこし協力隊」として熊本県内の経済紙およびローカル情報サイトでの勤務経験のある新たな協力隊員を受け入れ。同隊員は観光協会にてノウハウ、コネクションを生かしながら業務に従事。(2021.11)
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	78	情報の公開の徹底	現町政で議会からも不透明さを指摘されている、事業の決定過程などを「見える化」することで説明責任を果たしながら、組織内の緊張感を高めます。	
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	79	情報発信の徹底	国や県の助成制度などの有益な情報は、理解しやすい形で町の広報やHPを通して発信し、住民の制度活用を支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ●番号65のLINEセグメント配信機能も活用して、必要な方に必要な情報が届きやすくするための基盤を整備。(2021.09) ●民間企業との協定を締結し、副業人材として民間からの広報戦略アドバイザーを採用。(2021.09)
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	80	町民と町長の座談会	女性や若者、町への新たな転入者など、多様な層が参加しやすいテーマ別住民懇談会を充実させ、声をどんどん生かします。	<ul style="list-style-type: none"> ●振興総合計画策定に伴う懇談会の開催にあたり、通常の現地開催(計4回)に加えて、町内初となるオンラインでの開催を実施(2021.12) ●振興総合計画策定後の懇談会において、従来の校区別の全体回に加え、初の取組みとしてテーマ別の回を複数回設定。(2022.04)
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	81	少数の声の反映	福祉や子育てなどの各協議会にサービスを受ける“当事者”が含まれていないケースが多いことを踏まえ、「当事者団体の代表などの選任」を原則化します。	<ul style="list-style-type: none"> ●振興総合計画の策定審議会の委員として若者団体などの新たな層を委嘱。(2021.07) ●性的マイノリティへの理解向上および当事者の方々により安心感を持って生活できるよう、同性のパートナーシップ証明制度を県内で熊本市に次いで2番目に導入。(2021.10) ●振興総合計画の策定にあたり、中学生(大津中・大岡北中)へのヒアリング・意見交換を実施(2021.10)
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	82	大学や研究機関との連携	大学や研究機関などとも連携を進め、専門家の技術や知恵を取り入れながら、住民サービスの向上を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ●郵便局との包括連携協定を締結。フードポストや書類設置など幅広い分野で郵便局の持つ多様な機能を生かす。(2021.03) ●官民連携事業研究所と包括協定を締結。今後幅広い分野で企業や研究機関などとのマッチングに関する助言・助力を受ける。(2021.06) ●株式会社構造計画研究所(東京)とICTを活用した公共施設の管理や利便性の向上、防災情報取得の精度向上などに関する包括連携協定を締結。(2022.03)
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	83	区長との協力・支援体制強化	地域課題の多様化による負担の増加、それに伴う区長の重要性の向上も踏まえ、区長との協力・支援体制を総合的に見直し強化していきます。	<ul style="list-style-type: none"> ●区長に対してより確実に情報を届けるため、着信確認付きの電話自動発信による音声案内システムを導入。(2021.07) ●道路や側溝等の不具合について、区長だけではなく住民がスマートフォンを活用して町へ直接報告できるシステムの導入を開始。(2022.04)
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	84	ボランティアの活動支援	ボランティアの方々なしでは大津町政は成り立ちませんが、公の支援は不十分です。住民力を生かすため、活動を幅広く支える「住民活動支援制度(活動の予算や場のサポート)」を創設します。	<ul style="list-style-type: none"> ●2021年6月議会にて、議員時代にも創設を提言していた市民活動支援補助金(まちづくり担い手育成事業補助金およびコミュニティ助成事業補助金)の予算を可決。(2021.06/前年度から継続)
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	85	役場の接遇力(おもてなし力)の向上	日々の業務レベルで職員一人ひとりの住民に対する接遇力(おもてなし力)向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ●まずは電話対応マニュアルを提供するとともに庁内メールにて随時啓発を実施。(2021.06) ●10月に全職員を対象とした接遇力研修を実施するため事業者と契約し、詳細内容を調整中。(2021.08)
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	86	役場の多様性の確保	民間企業で一定の職務経験のある職員や、民間型採用(非公務員試験型採用)の導入などによって、外の風を入れることで、組織全体の活性化を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ●民間の複業人材として4分野各6名以上をマーケティングアドバイザー、広報戦略アドバイザー、政策総合アドバイザー、DXアドバイザーとして採用。(2021.09) ※仲介企業と協定を結び実証実験としておこなうため町からの仲介費・人件費の支払いは不要 ●民間企業から人材が派遣される「地域活性起業人」の制度を活用してANAから人材を受け入れ。(2021.12)
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	87	民間公募の女性幹部職員の登用(町長退職金カット分を財源)	住民の半分は女性ですが、大津町役場には女性幹部(部長)がこれまでも1人もいません。町長退職金1,494万を全額廃止し、民間公募の女性幹部職員を採用します。	<ul style="list-style-type: none"> ●女性幹部として、大津町初の女性副町長を登用。(2021.07) ※非公募・非民間
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	88	職員自らの業務・サービス改善	「若手職員が声を上げづらい」という声も耳にしますが、業務改善は組織文化に染まっていない若手から起こるケースが多数です。職員、特に若手による「業務カイゼン提案制度」を導入します。	<ul style="list-style-type: none"> ●全職員向けの無記名カイゼンアンケートおよび若手職員約100名との面談を実施。得られた内容を各担当課に割り振り、役場全体および各課へのカイゼンに順次反映中。(2021.06更新)
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	89	効率的な組織運営	各部署や個人の業務責任が曖昧で量にも偏りがあります。人員配置、業務量などを分析して、中長期的にも無理のない「効率的な組織運営」と「職員負担の軽減」の両立を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ●業務量調査等に関する予算を可決。民間事業者へ委託し、役場全体の業務量を把握・分析を行うとともに、業務のあり方・進め方、人員配置などの様々な改善を進める。(2021.06)
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	90	仕事の目標設定を見直す	例えば男女共同参画の業績指標に「集会の開催回数」が設定されるような、目標設定に疑問を感じる部分が多くあります。事業ごとの目標設定を明確にし、「業務の中身」と「成果」が一致する仕組みを整えます。	<ul style="list-style-type: none"> ●2021年3月議会にて、振興総合計画後期基本計画の策定業務委託費用を可決。初の試みとして、金額のみによる業者選定(指名競争入札)ではなく、事業者からのプレゼン提案型(プロポーザル方式)で、より町の描く方向性・手法にそぐう形でプランを作成できる業者を選定して進めている。(2021.06)
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	91	頑張る職員を正当に評価する	「業績評価(〇〇を成し遂げた)」ではなく「能力評価(〇〇できる能力がある)」が主になっています。職員の業務成果により着目し、「頑張る職員が正当に評価される」仕組みを整えます。	<ul style="list-style-type: none"> ●職員育成や組織マネジメント力の向上に向けて、約60項目のチェックシートを作成したうえで、これまでなかった中間での管理職面談を10月より順次実施。(2021.10) ●関連施策としてハラスメント相談窓口を設置。(2021.09) ●評価の適正化に向けた人事評価システムの導入予算を可決。合わせて、評価の設定や時期、プロセス等の改善に向けて並行して検討中。(2022.03)
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	92	計画的な職員育成と合理的な配置	本人からも周囲の職員からも疑問の声が挙がる人事異動が少なくありません。職員の希望や適性を踏まえることで、「合理的な人員配置」と「モチベーションを高めるキャリア形成」を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ●番号89、91の取組みとも合わせて推進。 ●これまでの勤務状況なども踏まえたうえで、従前よりも職員の異動希望を踏まえた人員配置を実施。(2022.04)

町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	93	業務分析やICTの積極導入	役所組織では大変遅れている分野である「業務分析」や「費用対効果測定」、「顧客（住民）満足度分析」、「ICTの積極的な導入」などを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ●業務量調査等に関する予算を可決。民間事業者に委託し、役場全体の業務量を把握・分析を行うとともに、業務のあり方・進め方、人員配置などの様々な改善を進める。(2021.06) ※番号89の取組みと共通 ●役場庁舎に公衆無線LAN（無料Wi-Fi）を設置。(2021.11) ●税金等のスマホアプリ決済、およびクレジットカード払い（熊本市に次いで県内2番目の導入）を開始(2021.12)
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	94	各種業務種類や手順を見直す	7年以上前から町へ提案しているものの未だ実施されていない、書類における不要な記載項目や押印の廃止、分かりにくい説明書きの見直しなどを進めます。	●押印廃止に向けて各課での洗い出しをおこない、全庁的に見直しを実施中。(2021.08)
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	95	課題の元を断つ環境改善	自殺、要保護児童、生活困窮、子育て、いじめなどの多様な相談事業において、要因分析を通して、課題の背景の確認と解消を徹底的に行い、「課題の元を絶つ環境改善」を進めます。	●課題の一元把握・対応に向けて、福祉全体では【ふくしの相談窓口】、子育て領域では子育て世代包括支援センター（2021年10月～）を設置。
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	96	縦割り行政を解消する	実際に働く職員でさえ感じている、縦割り行政において、町長直轄で民間の知恵を取り入れながら政策を推進する「政策推進室(仮称)」を設置して、横の連携強化を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ●複業人材として、町長直轄の政策総合アドバイザーを採用。(2021.08) ●町三役（町長・副町長・教育長）および全部長が参加する定例町政会議（毎週1回）を開始(2021.07) ●年度当初の幹部会議の手法を大幅に見直し、各部各課の取組みやスケジュールの共有を強化。(2022.04)
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	97	公共施設を適切に運用する	利活用が少ないにも関わらず、毎年数百万から一千万を超える維持管理費用を要している公共施設が複数あります。ライフサイクルコスト（建設から撤去までの総額）を前提にした建設計画を必須にします。	<ul style="list-style-type: none"> ●公営住宅を効率的かつ効果的に更新するための公営住宅長寿命化計画策定の業務委託予算を可決するとともに、更新ありきではなく過剰な部分があればスクラップをおこなうことを表明。(2021.06) ●年間8千万～9千万の維持管理コストを要している「スポーツの森」の指定管理に向けた内部検討・業者ヒアリングなどを開始。(2022.03)
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	98	安易な事業継続はしない	必要性が低下しても続いている事業が見られます。新規事業の開始と合わせて終了年度を決める「サンセット方式」を導入することで財政を圧迫することを防ぎます。	●設立以来、助成金事業としておこなってきた町観光協会への予算措置にあたり、3年間の期限を設けたうえで成果目標に到達することを条件とした委託形式による取組みへ変更。(2021.09)
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	99	町の貯金や借金を適切に管理する	熊本地震による支出増や、コロナ禍における収支減を踏まえ、町の貯金である基金や町債（町の借金）を適切に運営管理するとともに、中長期的な展望を持った財政運営を行います。	
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	100	多様な発想でお金を生む	これまで提案してきたものの進んでいない、町ホームページでの広告強化、町有地の有料での貸与など、町の資源を生かした多様な手法による歳入増加を図ります。	●新庁舎待合スペースのモニターに町内事業者の有料広告を募集・掲載。(2021.08)
町民に信頼され、愛される役場へ、行財政改革の徹底	101	ふるさと納税の強化	これまで様々な提案を繰り返すなかで、ようやく「ふるさと納税」が軌道に乗ってきました。強力なトップセールスと合わせて民間企業の手法も取り入れたふるさと納税の取組みを行うことで、町の魅力を発信しながら歳入の増加を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ●観光協会に発注している町長名刺デザインを改定し、裏面にてふるさと納税をPR。さらに共通デザインとして副町長をはじめ多くの職員や住民が利用可能なものとする。(2021.06) ●ふるさと納税を掲載・募集するポータルサイト数の増加に向けての手続き中。(2021.08) ●民間企業との協定を締結し、複業人材として民間からふるさと納税に知見のあるマーケティングアドバイザーを2名採用。(2021.09) ●委託先事業者とのトップミーティングを実施し、寄付額増加に向けた複数の新規取組みを開始。(2022.01) ●企業版ふるさと納税の取組みを開始。(2022.04)